

平成25年度叙勲及び厚生労働大臣表彰受賞者祝賀会並びに懇親会
(平成25年度祝賀会・懇親パーティ)

会員の力を合わせ、 難関を乗り越える決意



壇上で乾杯を唱和する来賓

叙勲及び厚生労働大臣表彰受賞者祝賀会と懇親会は、参議院議員の羽生田俊氏の特別講演のあと17時30分から開催された。会場となった東京會館「ローズルーム」には来賓の国会議員、行政、関連団体代表者の出席のもと、会員、賛助会員、報道関係者など総勢605名の参加者があった。

(日時：平成26年1月29日(水)、場所：東京會館9階「ローズルーム」)

最初に司会者より、平成25年秋の叙勲で旭日中綬章を叙された別所芳樹氏、平成25年度厚生労働大臣表彰を受賞された岩城修氏、佐々木敏郎氏の紹介があった。

○平成25年秋の旭日中綬章

別所 芳樹 (元日本医薬品卸売業連合会会長)

○平成25年度厚生労働大臣表彰

岩城 修 (東京医薬品卸業協会理事)

佐々木敏郎 (愛媛県医薬品卸業協会事務局長)

続いて、主催者を代表して、一般社団法人日本

受章(賞)された別所氏(右)と岩城氏





挨拶する卸連合会の鈴木会長

医薬品卸売業連合会の鈴木賢会長から次のような挨拶があった。

「本日はお忙しい中、大勢お集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、旭日中綬章を叙された別所芳樹さま、厚生労働大臣表彰を受賞されました岩城修さま、佐々木敏郎さま、本当におめでとうございます。

いま卸連合会として様々な課題に取り組んでおりますが、本日お集まりいただいた皆さまには、日頃連合会の事業にご協力、ご指導をいただきまして誠にありがとうございます。また、国会議員の先生方におかれましては、国会中の大変お忙しいなかをご参集いただきまして、本当にありがとうございます。

私は昨年の5月に会長に就任いたしました。当時別所前会長から、「会長はそんなに忙しくないから」といわれていましたけれども、今の実感としては、たいへん忙しい、また難しいと感じております。

ただ、ありがたいことに5人の副会長、理事、また会員の皆さま、専務をはじめ事務所のスタッフに助けられながら運営できていると感じております。

会長に就任しました昨年の5月は、流通改善の真っ只中にありましたが、会員各社や関係各位のご努力下、いまの医療保険制度のもと、薬価基準制度を維持するためには単品単価取引は必要だということのご理解をいただきました。残念ながら妥結率は低い数字になっておりますが、単品単価取引におきましては、1歩も2歩も前進しているのではないかと感じております。



挨拶する田村厚生労働大臣

私たちは、今後起きるかもしれない新型インフルエンザ・パンデミックに対しても社会的インフラとして医薬品の安定供給をしっかりとやっていかななくてはなりません。また、卸として毛細血管型の医薬品流通を広く進めていかないといけないという使命がございます。ぜひとも、このことに対してもご理解をいただきたいと思っております。

また、4月からの消費税増税の問題があります。なかなか複雑な面があって、理解しにくい部分があるかもしれませんが、医薬品においては消費税で損税は発生しないということです。本日開催された理事会でもいろいろ議論をしまして、消費税転嫁対策特別措置法に基づく表示カルテルを実施したいと思っております。まだ実施時期など、詳しいことはこれからでございますけれども、そのようになりましたら、ぜひともご協力のほどをよろしくお願いいたします。

いま業界といたしまして、問題は山積みでございますけれども、会員みんなで力を合わせて、この難関を乗り越えようと考えております。」

続いて、厚生労働省を代表して田村憲久厚生労働大臣から次のような挨拶があった。

「受賞者の皆様、まずもって心からお慶び申し上げます。

やはり3本目の矢、成長戦略にたいへんいま注目をいただいております。これが成長していかないと、消費税が上がる中において日本の経済が失速をするのではないかと心配をいただいておりますから、そこはわれわれもしっかりと見据えながら、今年は政権運営をしていかなければなら

ないと思っております。

この成長戦略の中でいいますと、日本再興戦略でもそうでありまして、先般、閣議決定されました産業競争力の強化に関する実行計画の中で、やはりこの画期的な医薬品の創薬に対してたいへんな期待をさせていただいております。日本版NIHもそうでありまして、創薬支援ネットワーク、これもしっかりと整備する中において、基礎研究から、それこそ製品化するまで、一貫してわれわれも支援をしていく。知財管理の支援、研究の支援、企業との連携もしていく。厚生労働省だけではなくて、経済産業省、産業技術総合研究所でありますとか、また文部科学省とか、こういうところとも協力をしながら、しっかりと創薬支援をやっていくことでいい薬ができる。

そして医療現場では、がんに力を入れるだとか、難病に力を入れるとか、いろいろなことをやっていかなければなりません。いい薬があって、医療機関もしっかりと充実をしていただく。しかし、その間に薬をしっかりと供給をいただく皆さま方がおられなければ、これは日本の医療というものは成り立たないわけでございます。そんな意味で日頃よりたいへん感謝を申し上げているわけでありまして、平時のみならず、大震災、そしていろいろな災害、さらには新型インフルエンザ、そのような有事のときのいろいろな対応、これにも皆さま方には、ぜひ今後ともお力添えをいただきますように、心からお願いをいたす次第であります。

しかし、医療保険制度を安定的に持続していくためにはいろいろな課題もあるわけでございまして、皆さま方はいま医薬品の価格体系の再構築、見直しに入っておられる。その中には、やはり流通改善という、例えば妥結率の問題、総価取引の問題、こういうものに対してどうするのかという課題もあるわけです。新しい制度をつくるうえで、ぜひともこの医療保険制度の安定性というものを維持していただきたいと願っています。これらはいへん重要な問題でありますから、われわれ厚生労働省も皆さま方の取組みに大きく期待をさせていただいております。

診療報酬改定、薬価改定、消費税増税など、皆さま方たいへんな環境の変化の中でご苦労いただくわけでございますけれども、日本の国民の皆さま

の医療をお守りいただくという意味でご努力いただく中で、われわれ厚生労働省もしっかりとお手伝いできる場所はしてまいりたいと思っております。

今後とも、ご期待を申し上げますので、どうか本年も卸連合会がご活躍をいただきますように、心からお願いとご祈念を申し上げ、あわせて本日、叙勲並びに厚生労働大臣表彰を受賞された皆さま方には心からお祝いを申し上げて、一言新年のご挨拶に代えさせていただきたいと思います。」

続いて、17年間にわたり日本薬業政治連盟の会長を務め、今回名誉会長に就任した熊倉貞武氏から次のような挨拶があった。

「今年の1月で70歳になりました。自民党の内規によると、もう比例区には出られない年齢になりました。これからしばらくは大きな国政選挙もなく、交代するならこの時期をおいてほかにないだろうと思っておりましたが、なかなか後任の方を口説くのがたいへんでございました。新会長の鹿目広行氏は、皆さまもよくご存じのように、明るくいし、声が大きい、論旨がはっきりしている。それからなんといいましてもこの世界は、論理よりも義理と人情が優先する世界でございます。たぶん根負けしたのだらうと思いますがようやく了解をしていただき、本日会長交代をさせていただきました。ただ、人脈、ネットワークが重要でございまして、いきなり全部を彼のところに押し付けるといのも問題がありますので、名誉会長という立場で彼を全面的にサポートさせていただいて、今後とも薬業政治連盟の活動に支障をきた

挨拶する薬政連の熊倉名誉会長



挨拶と乾杯の発声をされる来賓の方々



横倉日本医師会会長



児玉日本薬剤師会会長



内藤日本製薬団体連合会会長

さないように考えておりますので、これからもぜひよろしく願います。」

続いて、公益社団法人日本医師会の横倉義武会長から次のような挨拶があった。

「医薬品流通において長年にわたりご尽力をされ、このたびそのご功績によって、平成25年秋の叙勲及び平成25年厚生労働大臣表彰の栄に浴されました、別所前会長はじめ皆さまに心からお祝いを申し上げますの次第でございます。

さて、安倍政権の発足とともに日本経済は少しずつ元気を取り戻してきたということですが、われわれ医療を取り巻く環境は、非常に厳しい状況であるということに変わりはないようでございます。一番の課題は、国民皆保険を支えていく財政的な問題を抱える中で、将来の超高齢社会をどのようにして乗り越えていくかということであろうかと思っております。

その一方で、国の財政難を理由にさらなる規制改革が叫ばれておりまして、混合診療や民間医療保険の拡大など、一段と医療の産業化への動きが聞こえてくる状況に、私どもは不安を感じているところでございます。日本医師会としましては、社会保障と経済、その対立する軸の中で、国民の健康、国民の医療を守る立場から様々な主張をしていかなければならないと考えておるところでございます。

皆さまご承知のとおり、医療用医薬品は人の生命に直接かかわりのあるものでございます。また私たちが行う日々の診療において欠くことのでき

ないものであります。特に医療用医薬品の適正な流通への努力ということは、医薬品の安定供給につながるだけでなく、わが国の医療保険制度を支えている薬価基準制度の適正な運営を担うものでありまして、その制度を根底から覆すということはありません。

これから世界に先駆けて本格的な超高齢社会を迎えるにあたりまして、日本医薬品卸売業連合会におかれましては、健康を求める国民の期待に応えうる医薬品の安定供給と流通に向けて、さらなるご尽力を賜りますとともに、国民皆保険の堅持を共通の理念として、国民医療の推進に向けてさらなるご支援のほどをこの場をお借りしてお願いをする次第であります。

以前もお話ししましたが、医療機関と医薬品卸会社というのは、一心同体であります。以前から様々なことで協力をし合いながら地域医療を支えてきたわけでございますので、今後ともよろしくお話をしたいと思っております。

結びになりますが、本日ご参集の皆さま方と日本医薬品卸売業連合会のさらなるご発展をお祈りいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございました。」

続いて、公益社団法人日本薬剤師会の児玉孝会長から次のような挨拶があった。

「叙勲及び厚生労働大臣表彰の栄に浴されました皆さま、本当に長年のご苦勞に対し敬意を表したいと思います。おめでとうございました。

先ほど、来たるべき超高齢社会における社会保



大勢の出席者で賑わう会場内と
会場となった東京會館(下)



横倉医師会会長と言葉を交わす別所前会長(右)

障制度改革にどう対応するのか、というお話がありました。私ども薬剤師はその中で、医薬品の安全と適正使用をいかにやっていくか。これが私どもの仕事であります。そういった観点から、それに対応すべく様々な考えを整理しているわけですが、特にその中で、大変に重要な、毛細血管として供給をしていただいております医薬品卸の皆さま方に、いくつかお願いをしたいことがあるわけがあります。

まずは、これからの地域医療は在宅医療が中心になるわけでございまして、その在宅で使う医薬品の供給を皆さま方をお願いしなければなりません。特にこれからターミナルケアでの医療麻薬、このデリバリーは大変だとは思いますがしっかりとお願いしなければなりません。

また、今後24時間対応の医療がでてまいります。これに対する医薬品供給、これもなかなかたいへんではありますが、お願いしなければなりません。

一方で、やはり健康づくりとしての地域の薬局のあり方を考える場合、一般用医薬品の充実、あるいは健康づくりとして予防対策や重症化対策としての検査もしっかりやってまいります。そうなれば、やはり検査にかかわる医薬品などの供給もあります。

そのようにいろいろな角度で、ぜひ現場の私どもも社会保障制度改革の中でしっかりとやっていくうえで、医薬品卸の皆さま方のご協力を心からお願いをしまいたいと思います。

医薬品卸の皆さま方の発展を心からお願いを申し上げます。今日はおめでとうございます。」

続いて、ご来臨の国会議員・来賓の方々が登壇され、関連団体を代表して、日本製薬団体連合会の内藤晴夫会長のご発声により、乾杯が行われ祝宴に移った。

その後も、祝宴中に石原伸晃環境大臣、根本匠復興大臣、石破茂自民党幹事長、衆議院議員丹羽雄哉先生、塩崎恭久先生、鈴木俊一先生、野田毅先生、後藤茂之衆議院厚生労働委員長、西村康稔内閣府副大臣、とかしきなおみ先生、豊田真由子先生、古川元久先生、参議院議員藤井基之先生、衛藤晟一先生、赤石清美厚生労働大臣政務官、丸川珠代自民党厚生労働部会長、福岡資麿内閣府政務官、三原じゅん子先生、足立信也先生をはじめ多数の先生方にご来臨・ご祝辞をいただくなど盛会裡に宴は進み、薬政連渡辺秀一副会長の閉会挨拶で定刻19時に終了した。



閉会の挨拶をする渡辺副会長